

1学期が終了し夏休みに

1学期が間もなく終了します。新型コロナウイルスの影響がほぼなくなり、コロナ前のリズムによる校内での学習活動が戻ってきました。5月に実施した各学年の体験活動も、一部変更があったものの無事に終えることができ、それぞれの学年での大きな成果となりました。さて、いよいよ夏休みに突入です。3年生は夏休み前半で部活動を引退しますが、すぐに高校のオープンキャンパスなどがあります。自ら積極的に体験をして、「なりたい自分」を意識しながら今後の進路決定の参考にしましょう。また、2学期には「体育祭」や「文化祭」などの大きな行事があります。これらの行事は中学生にとって、自らの大きな成長につながる貴重な機会です。このチャンスを生かすためにも、夏休み中は規則正しい生活を心がけましょう。2学期の主な行事は次のとおりです。

■2学期始業式 8/25（金）
■体育祭 9/9（土）
■2学期終業式 12/22（金）

■新人戦 9/2（土）3（日）
■文化祭 10/21（土）

生徒会スローガンの達成に向けて

今年度の生徒会スローガンは、「全進～みんなで創る 誇れる学校～」です。誰一人欠けることなく、遅れることなく、全員で成長する。仲間と繋がり助け合い密にかかわり励まし合って限られた中学校生活をやりきることができるようにしたいという意味を込めました。

生徒会活動を通して、藤山中学校三本柱である「あいさつ」「時間厳守」「校内美化」が徹底された学校生活を創り上げていく「前進」と、一年間というかけがえのない時間を全力で生きる「全進」をかけ合わせています。このスローガンを全員で達成し、より良い誇れる藤山中にしていきたいと思います。

（生徒会長 國村 唄）

人権教育講演会「挑戦～他人与違うことのすばらしさ」

7月3日（月）午後は、全クラスの道徳の授業を保護者の皆様に参観していただき、その後体育館で人権教育講演会を開催しました。講師には宇部市出身の「ウォーターアートパフォーマー」、堀川玄太さんと玄太さんのお母様の堀川貴美子さんをお招きし、「挑戦～他人与違うことのすばらしさ」を演題としてご講演をいただきました。

まず玄太さんのウォーターアートが披露されました。軽快なリズムで様々な作品を目の前で創り出すパフォーマンスは圧巻でした。その後、貴美子さんが玄太さんの個性や周囲の方とのつながりについてお話されました。人にはそれぞれ特性があり、それを認め合うことでお互い心が通うこと、自分の様々な特性をプラスに捉え、好きなことや得意なことをしっかりやり通すことなど、多くのメッセージをいただきました。

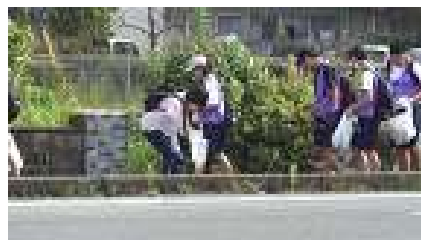
最後にもう一度玄太さんによるパフォーマンスがあり、「人を大切に思うこと」を伝える作品が出来上がりました。短い時間でしたが、生徒が人権について深く考えるよい機会となりました。



★地域元気応援隊の活動★

①「全市一斉空き缶等回収」

7月2日(日)、藤山ふれあいセンターに、隊員が集まりました。4コースに分かれて、藤山ふれあいセンターを出発し、藤山校区を地域の皆さんと会話を交わしながら、1時間程度歩き回ってごみを回収しました。回収活動には高校生や大学生のボランティアも参加しており、本校の地域元気応援隊の取組を知っていただくよい機会にもなりました。各隊員とも、歩道に落ちている空き缶やタバコの吸い殻などを細目に見つけ回収し、地域の美化活動に貢献しました。



この日はさらに、次にお伝えする小学生の交流活動の運営、鵜ノ島地区の清掃活動、福祉バザー（ヤング自治会の活動）にも多くの生徒が参加し、小学生や地域の方々から多くの感謝のお声をいただきました。

②「中学校で遊ぼう！！」

7月2日(日)、鵜ノ島ふれあいセンター主催で、来春藤山中学校に進学する予定の鵜ノ島小学校、藤山小学校の6年生が交流できる場が企画され、両小学校の児童とその保護者、地域の方が藤山中学校に來校されました。



地域元気応援隊は、この交流活動の運営をまかされ、4グループに分かれて校舎を案内し、さまざまな質問にも丁寧に応えていました。その姿に地域の方からお褒めの言葉をいただきました。また、レクリエーションやクイズなども小学生が楽しみながら交流できる内容を準備して盛り上げてくれました。

保護者や地域の方に中学校について堂々と説明したり、小学生に「来年は藤山中で会いましょう」と優しく声をかけたりしている隊員に頼もしさを感じました。

藤山中学校図書館 一般開放情報 令和5年 8月

曜日	開 館 日（12：30～16：30開館）	
月	28	
火	22	29
水		
木	31	
金	25	



司書今月のおすすめ book 「人がつくった川・荒川 水害からいのちを守り、暮らしを豊かにする 長谷川 敦（はせがわ あつし） 著 517 ハ

首都圏をつらぬき、流域に約1000万人が住む荒川は、人の手でつくられた川です。荒ぶる川＝荒川の流れを変えることで江戸の繁栄はうみだされ、たび重なる洪水から人々を守ってきました。川の歴史と流域の暮らしの変化をていねいに追いかけてながら、地球温暖化が原因とされる近年の大規模な水害をどう防ぐかまで、荒川の過去・現在・未来を旅します。第69回青少年読書感想文全国コンクール中学校の部課題図書です。